

2026 年 6 月 2 日更新

立正大学大学院経済学研究科・大学院入学試験における過去問について

出題方針：経済学研究科における大学院入試では、以下、日本語による記述式の問題を採用し、**問1**と**問2**で計2問が出題されます。

問1について：下記のいずれかの問題はB日程とC日程に出題されます。

あなたが大学院で研究したいテーマについて、先行研究との違いを明確にしたうえで、どのような点に独自性があるのか、論理的に説明せよ（700～800字）。

あなたが特に関心のある経済学の問題は何か、あなたが大学院で学びたいことと関連付けながら説明せよ。（700～800字）

問2について：経済問題、経済情勢、あるいは、経済学の各分野に関連する文章（1000字程度）が問題文として出題されます。与えられた文章を読んだうえ、その概要及び読んだ感想を400字以内にまとめてください。

※問題文は経済学の各分野の教科書、あるいは一般書籍、新聞記事（評論、社説等も含む）、論文、各種白書から出題されるほか、出題者によって独自に作成された文章が出題されることもあります。過去に出題された問題文の出典の一部を列挙します。

- ・『日本経済新聞』、『読売新聞』、『朝日新聞』
- ・『経済セミナー』日本評論社
- ・岩田規久男『日銀日記』筑摩書房、2018年
- ・吉川洋『人口と日本経済』中公新書、2016年
- ・経済産業省『通商白書 2020』
- ・松井彰彦『不自由な経済』日本経済新聞社、2011年
- ・野村浩二『日本の経済成長とエネルギー：経済と環境の両立はいかに可能か』慶應義塾大学出版会、2021年
- ・馬奈木俊介（編著）『農林水産の経済学』中央経済社、2015年
- ・山森亮『ベーシック・インカム入門』光文社、2009年
- ・厚生労働省『令和6年版 労働経済白書』

※著作権の関係上、過去に出題された問題文の掲示はありません。

※入学試験における出題の形式及び範囲などを事前に予告することなく、変更することがあります。